

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	俳句：文苑
Author(s)	紫暝吟社；吞舟；呼雲；龍翠；琴翠；百日紅；凡午；紫村；南斗；霽月
Citation	龍南會雜誌， 1 0 2： 4 5 - 4 6
Issue date	1903-11-25
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/5630
Right	

俳句

天長節

馬子船子君が代歌ふ菊日和 吞舟
 菊に賀す天長節や日本晴 呼雲
 背戸の菊露新なり此の晨 龍翠
 金屏に菊をいけたり菊の宴 琴翠
 衣冠して百官晨菊に賀す 百日紅
 天長節皇孫健に在します 凡午
 君が代は野分もなく菊の花 紫村
 聖代の野に遺賢なし菊御宴 南斗

金風白露

瑠璃頬赤石榴熟して今日も来る 霽月

船待や北海日和冬近し
 玄海や秋吹き晴れて壹岐對島
 朝寒の椽に狸の足目かな
 末枯の葡萄畑や渡り鳥

紫 瞑 吟 社

蓮堀や泥に引拔ぐ足二尺
 茸狩やなれぬ草鞋に足の豆
 珍重す會心の句や破扇
 砂原に流人の墓や曼珠沙華
 秋雨や酒をすゝむる島司の女

霽月先生選

鵲が鳴く丘に夕日や墓多し 百日紅
 贅さして尾たゞく鵲のけたゞき 凡午
 もずの聲漆かく人獨りぞつ 全
 秋晴やもすなくや岡の一本木 紫村
 もず鳴くや寺の後ろの小藪原 全
 もず檜を傳へて天下合従す 南斗
 吾が居るをもす來鳴くなり野雪隠 全
 大根まく段々畑の入日かな 呼雲

栗引て今日の日和や大根蒔 凡午
馬次いで馬子にも飲ます新酒哉 全

秋獨り新酒の酔やさめがてに 百日紅

